

おおさかの橋

いま・むかし



住吉そり橋

【大阪百景より】

<内 容>

1・大阪の橋のいま

2・橋の近代化の歴史

3・橋と都市景観づくり

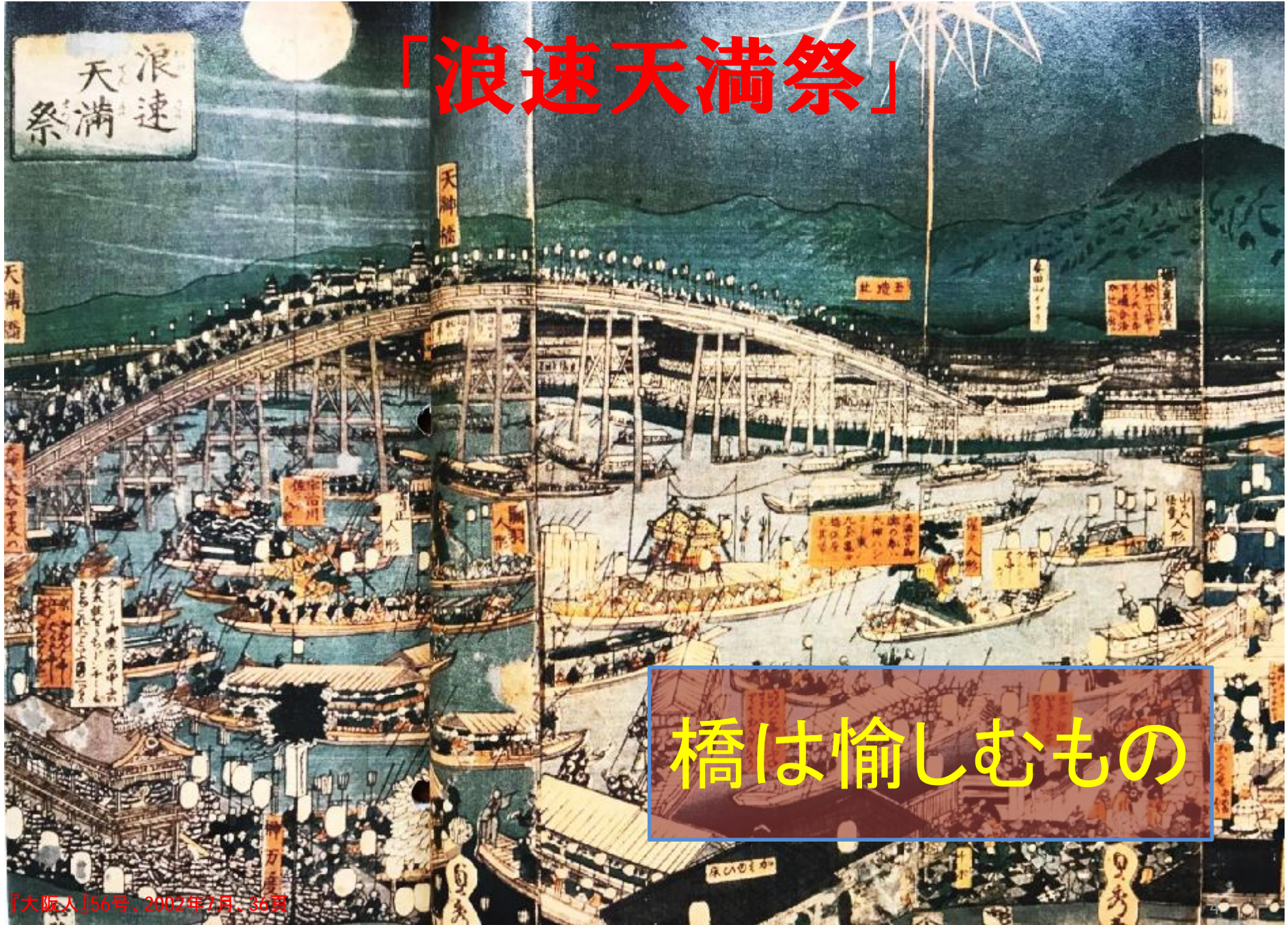
4・長大橋の建設

1・大阪の橋のいま



「天神橋」丸山石根・牧村史陽作品集『大阪百景』より

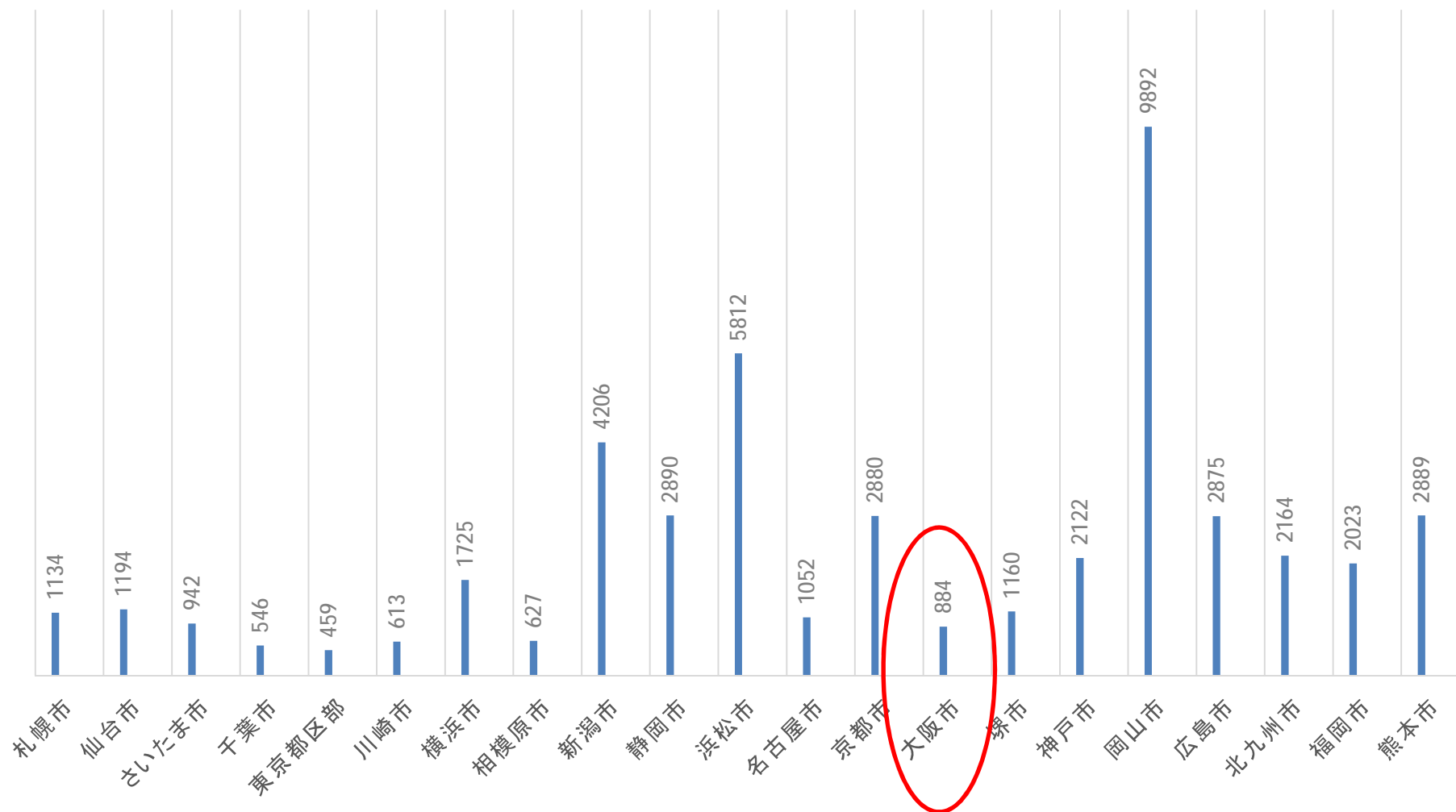
「浪速天満祭」



橋は愉しむもの

1・大阪の橋のいま

政令指定都市の橋梁数(平成28年4月1日)



1・大阪の橋のいま

大阪市内の橋のライトアップ

(昭和58[1983]年より実施)



平成29年3月時点、大阪市HPより

※(港)は港湾局管理のライトアップ橋梁

2・橋の近代化の歴史



「大坂図屏風」より

浪華八百八橋

(なにわはっぴゃくやばし)

と呼ばれたおおさか

実は、江戸では約350橋 大阪では約200橋・・・

江戸時代の橋 = 「公儀橋」 + 「町橋」

- ・「公儀橋」とは？

幕府は、直接管理し、架け換えや補修にあたっては幕府の費用で賄われた橋のこと。

- ・「町橋」とは？

公儀橋以外の橋は有力商人や橋近隣の町々が支出する費用によって管理が行われる橋のこと。

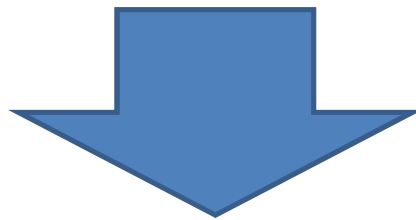
★「町橋」の数！！

大阪では約200橋のうち、公儀橋は12、残りが町橋
江戸では約350橋のうち、公儀橋は160～170

(1) 木橋から鉄橋

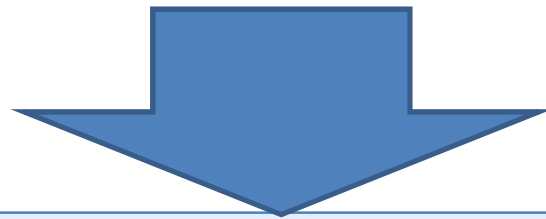
【背景】

明治維新とともに西洋文明が流入し、
橋は大きな技術革新の波を受けた。



明治15(1882)年までに、
いくつかの橋が鉄橋となった。¹⁰

鉄橋化を促進する もう一つの契機



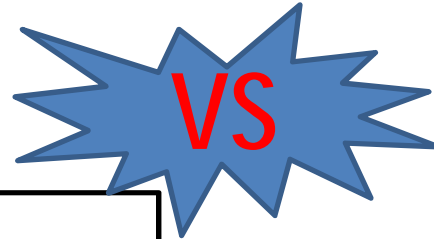
明治18（1885）年の
淀川の大洪水

洪水後の橋の再建

大阪府会

(明治18年7月25日～7月31日
明治18年8月22日～8月27日)

市内の主要な橋18橋の
鉄橋化案
(3カ年約90万円)



財政的な問題



第5代大阪府知事
建野郷三

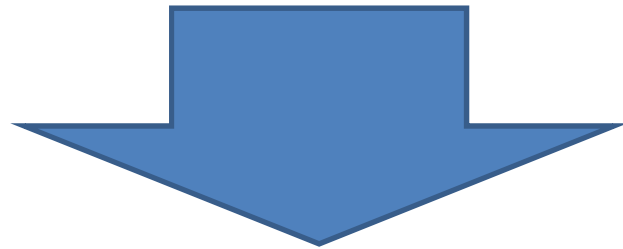
明治13(1880)年5月4日
～22年3月16日

5橋の全鉄橋化

(天神、天満、木津川、渡辺、肥後。残りの橋は、橋杭のみ鉄材、欄干が木造)

(6カ年約50万円＋
国庫補助金約10万円)

(2) 鉄橋から永久橋



大阪市の

市電敷設事業

【背景】

①工業都市として発展

→大量輸送機関として汽車・電車の導入

→市電敷設のため道路の拡幅工事

→明治36(1903)年～大正中期

市電敷設のため架設・改築された橋は50以上

②当時、実用化された鋼の普及



大阪の橋は急速に永久橋化されていく

橋の近代化の大まかな歴史的流れ

木橋 → 鉄橋 → 永久橋

実用性重視！

3・橋と都市景観づくり



「高麗橋」: 丸山石根・牧村史陽作品集『大阪百景』

大阪市の**第一次都市計画事業**

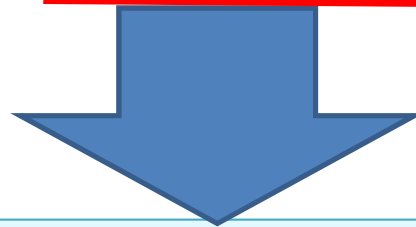
(大正10年スタート)

街路新設、拡幅に伴う橋の新改築を7年で行う計画であったが、関東大震災を契機に、

→82橋を耐震構造へ改築、

→約20年間で150を超える橋が**永久橋**となり、

今日でも近代的な都市景観形成の一翼を担う。



上路式アーチ橋が多い

このように、
中之島・東横堀川地域に**上路式
アーチ橋**が多い！

なぜ??



①周辺環境と調和し、都市景観の形成を重視したもの。

②散策の邪魔にならない。

実用性
+
意匠面

4・長大橋の建設



十三大橋

4・長大橋の建設

十大放射路線建設事業

(大正15(1926)年6月開始、大阪府)

- ・市街地拡大に伴う交通量の増加に
対応するため

⇒大河川に幅の広い長大橋が次々と架設！

たとえば、

淀川 ⇒ 十三大橋、長柄橋、伝法大橋

大和川 ⇒ 大和川大橋、遠里小野橋

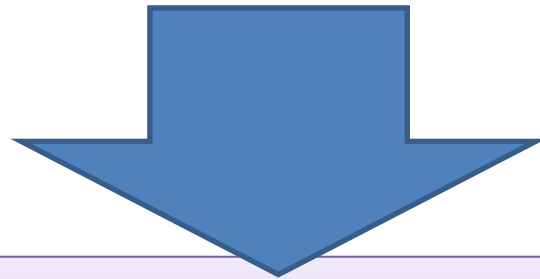
番外編1

地名として残る橋たち

【堀川の埋立と橋の撤去】

- ・戦後、舟運需用の減少、水質低下による環境の悪化
- ・道路・公園など公共用地の確保

→ 堀川が埋め立てられ、橋が撤去された。



(橋がつく地名)

Ex. 心齋橋、四ツ橋、鶴橋、桜橋

番外編2

「水都大阪」事業



水都大阪

AQUA METROPOLIS OSAKA

「水都大阪」

水と光のまちづくり構想

水都大阪推進委員会：

「水都大阪 水と光のまちづくり構想」素案につき

2011年7月4日～8月3日まで

一般から広く意見を募集、

「水都大阪 水と光のまちづくり構想」を策定

⇒水と光のまちづくりの取り組みを加速、

⇒大阪の魅力をさらに進化及び深化、

⇒都市イメージを刷新、

⇒世界に誇る水都大阪ブランドの確立をめざす。

水の回廊



都心で、回廊のようにぐるりと川が周回している都市は世界的にも珍しく、「水の回廊」と呼ばれる。
中之島を中心に水と光のまちづくりが進められ、都会のダイナミズムと、おだやかな安らぎを感じさせてくれる風景が広がる。

季節のクルーズ

夏：七夕天の川イベントと天神祭との
コラボレーションクルーズ



春：大川さくらクルーズ

冬：イルミネーションが
幻想的な光のナイトクルーズ

【まとめ】

1、橋のいま

橋のライトアップ事業

2、橋の近代化の歴史

木橋 → 鉄橋 → 永久橋

3、橋と都市景観づくり

上路式アーチ橋が多い

4、長大橋の建設

大阪府の十大放射路線事業

【試論】

「浪華八百八橋」の現代的意味

むかし



町橋が多数

いま



実用性＋意匠面
の橋が多数

【参考文献】

- ・大阪市HP。
- ・水都大阪HP。
- ・国土交通省近畿地方整備局HP。
- ・松村博『大阪の橋』松籟社、1987年。
- ・『写真集 おおさか100年』サンケイ新聞社、1987年。
- ・伊東孝『水の都 橋の都:モダニズム東京・大阪の橋梁写真集』東京堂出版、1994年。
- ・堀田暁生「橋の都の歴史物語」(『大阪人』第56号、2002年7月)
- ・佐々木葉「橋を愉しむ、物語を読み解く」(『大阪人』第56号、2002年7月)
- ・原島広至『大阪今昔散歩』中経文庫、2010年。